

中等教育学校が見えてきた！

～中等教育学校を支援する市民会議～

7月12日(月)、市民会館で中等教育学校を支援する市民会議が開かれました。

同会議は今年度から登別高校敷地内で(仮称)北海道立中等教育学校の建設工事が着工されることを受け、同校が登別にふさわしい中等教育学校となるよう開設や運営に支援・協力しようと今年3月に設けられた組織です。

この日の会議では、冒頭のあいさつの中で、武田教育長が教育内容などソフト面の充実を図るため、『中等教育学校開設準備室』の設置を北海道などに要請していることを明らかにし、続いて北海道教育委員会の職員から中等教育学校設置の経緯や施設の概要、工事計画などの説明が行われました。

説明では、平成19年4月に開校が予定される中等教育学校は、生徒数は各学年80名(2クラス)(開校時は前期課程(中学校)1年生と後期課程(高校)1年生の入学を予定)で6学年。校舎は2階建て(70坪が木造で、教室廊下などの床・壁に木材を使用し、間仕切りにガラスを多用するなど開放感を演出)で敷地の北西側に配置し、屋内運動場、格技場のほか、プールの建設も予定されています。

工事は、今月から着工される校舎に始まり、平成18年度に体育館・格技場、平成19年度には現在の登別高校校舎の解体が予定されています。



(仮称)北海道立中等教育学校のイメージ図



知事と西胆振8市町村長との懇談会

～まちかど対話212～



7月12日(月)、登別温泉町で高橋はるみ知事と西胆振8市町村長との懇談会『まちかど対話212』が開かれました。

この懇談会は、知事が市町村を訪れ、地域の方がたと対話し、道民のみなさんの声を地域づくりに反映していくことを目的に開催されているものです。

懇談会では、『魅力ある観光地づくり』をテーマに、各市町村長と意見交換が行われ、上野市長は「地元の産業と観光産業との連携をもっと深めて行く必要がある」と述べ、ほかの市町村長からは「地域の特色ある観光資源の活用、体験型観光の推進、旅行者への魅力ある情報の提供」などの提言がありました。

これに対し知事は「西胆振の地域間で協力することが重要」と答えていました。

パステルカラーが風にそよぎます

～登別市民憲章推進協議会

JR幌別駅西口駅前花壇植栽～

7月4日(日)、登別市民憲章推進協議会によるJR幌別駅西口駅前花壇の植栽が行われました。

この取り組みは、『花いっぱい運動』の一環として、昨年度から行われているもので、この日は会員約70人が参加。同協議会花部会のメンバーが大切に育てたマリーゴールド、アゲラタム、サルビア、ペゴニアの苗約2,200株を一株ずついねいに植えました。

赤、黄、青のパステルカラーで市民の目を楽しませてくれるこの花壇は、市民団体や町内会など52団体の協力により、10月末まで交代で手入れが行われます。

